

令和元年10月15日

清水町議会議長 加 来 良 明 様

清水町議会広報広聴常任委員会  
委員長 佐 藤 幸 一

## 所管事務調査について

常任委員会活動として行う所管事務調査について、このたび調査を終えたので、その結果を下記のとおり報告いたします。

### 記

1. 調査事項 議会広報紙の編集方法及び体制について
2. 調査期日 令和元年9月26日、10月2日・3日、  
10月11日
3. 調査先 遠軽町議会、鷹栖町議会

#### 4. 調査の結果

本町議会においては、議会活性化の取り組みの一環として、議会広報編集の専任化を図る目的で、平成30年3月に広報広聴常任委員会を設置した。町民にとって読みやすく、わかりやすい議会広報の発行に向け調査・検討を重ね、令和元年5月（第157号）発行の議会だよりから紙面のリニューアルを行った。更に親しまれる議会だよりの紙面づくりを行うため、遠軽町議会・鷹栖町議会を訪問し、議会広報紙の編集方法及び体制について調査（事前・事後研修を含む）を実施した。

## 【遠軽町議会】

「えんがる議会だより」は、定例会ごとに年4回、定例会の翌々月の29日に発行している。紙面は、A4版、全ページ2色刷りとなっている。

広報特別委員会（委員4名、任期4年）が所管し、事務局で作成した原案をもとに、委員会で審査する方法を基本として編集を行っている。委員会は発行に向けて3～4回程度開催しており、定例会の初日若しくは2日目に第1回目の委員会を開催している。

表紙の写真は、発行時期に応じた行事などを掲載し、町村合併した経緯を踏まえ合併前の旧町村4地域に配慮しながら、町の将来の発展を連想させる「子どもの写真」を基本としている。裏表紙には、「えんがある話（まちの声）」というタイトルで、各種活動等で活躍する方々にスポットを当てて、町民の声として掲載している。

特徴的な取り組みとしては、若い人にも議会の活動を知ってもらえるようLINE公式アカウントを今年度から導入し、議会ホームページにリンクさせている。登録の働きかけを行っており、現在100名程度の登録がある。予算の特集記事では、大科目ごとに予算内容の特色と議員の質疑・答弁がわかりやすく構成されている。議員が紙面へ掲載したい事項は、議会終了後に「新年度予算に係る質問票」により提出を求めるなど、質疑をせざるを得ない状況もつくり出されており、結果的に議会の活性化に結びついている。裏表紙の「えんがある話（まちの声）」は、町民登場企画であり、担当委員が輪番制で取材しインタビュー形式で原稿を作成している。取材先の人選も合併前の旧町村4地域に偏りがないう、調整しながら行われている。また、議会広報の充実に向けた取り組みとして、毎年、議会広報クリニックに提出し、最低1箇所は改善していくことにしている。

## 【鷹栖町議会】

たかす議会だより「孔雀草」（孔雀草は町花「マリーゴールド」の和名）は、定例会ごとに年4回、定例会の翌々月の5日前後に発行している。紙面は、A4版、表紙・裏表紙2色刷り、その他白黒となっている。

議会広報広聴常任委員会（委員は議長を除く全議員11名、任期4年）が所管している。全議員で構成しているのは、広報活動強化のため、議会だより作成以外に、定例会前に「お知らせチラシ」（A4版両面・1枚）、定例会直後に「速報版」（A3版両面・1枚）を発行し迅速な広報を実施している。また、追跡レポート（カラーA3版両面・1枚）を年に1回発行し、一般質問が町政にどう反映されているのか、その後どうなったのかをお知らせしている。広報業務の割り振りは、議会だよりとその他の業務で2班に分けて分担している。編集作業は、基本的には委員自らが紙面を作成し、委員会で協議しており、事務局の関わりがごく一部となっている。委員会は発行に向けて4回程度開催しており、定例会終了後概ね3日以内に第1回目の委員会を開催している。

紙面構成は、フォントサイズが11ポイント、5段組の紙面で、読みやすい広報を心がけている。表紙の写真は、年度ごとにテーマ（平成29年度：幼稚園の活動、平成30年度：農業、令和元年度：町制施行50周年）を決めている。12月定例会号に関しては、成人式の集合写真が定番になっている。裏表紙には町民登場企画として、「わたしの一言」「議会報モニターからの声」を掲載している。

議員の関わり方は、ページ構成・写真入手・記事作成・データ作成の8割を、議員が担っている。以前は事務局が原案を作っていたが、少しずつ議員の担当部分を増やし1年前から議員が原案を作成している。現状では原案作成は委員長が中心に行っているが、4年の任期中でほかの委員もできるようにすることを目標としており、紙面作成の技術的な研修にも参加している。

議会広報の充実に向けた取り組みとして、全道の研修会には毎年参加し、東京の研修会にも2年前から参加している。議会広報コンクールとクリニックは機会があれば参加し、今期はコンクールでの

入賞を目指している。また、議会報モニターからの意見は紙面上で紹介し、よいものはすぐに反映している。更に紙面にクイズを出し、抽選により景品を出しているが、今年度からクイズの回答と一緒に「よかった記事」と「よくなかった記事」についても書いてもらうように記載をしている。

### 【まとめ】

遠軽町議会においては、LINE公式アカウントの導入による議会情報の発信、予算審議での大科目ごとによる予算の特色と質疑・答弁がわかりやすく構成されている点は、今後の検討事項として大いに参考になる内容であった。

鷹栖町議会においては、「理念」として、「編集方針」をきちんと持ちながら実践している。紙面構成から作成までのほとんどを議員が担っており、本議会もどこまで取り入れることができるのかについて、今後の検討課題としたい。「速報版」も取り入れており、その分議会だよりに紙面の余裕ができ、読みやすい紙面づくりができていることは参考になった。また、議員全員で任意団体「活性化委員会」を作り、その中で、町民との意見交換を行う「地域を語ろう会」と「追跡レポート」の費用を負担するなど、公式な議員活動に縛られない活動を試行錯誤しながら実施している点について、ユニークかつ努力の跡が伺え、参考にしたい事項であった。

両町とも、非常に苦勞しながら広報広聴を通じた議会の活性化に取り組んでおり、本議会もより親しまれる議会広報となるよう、議論を重ね改善に取り組む考えである。